

知床未来中学校

平成30年4月10日開校式を行う予定の知床未来中学校を視察してきました。(1月29日)

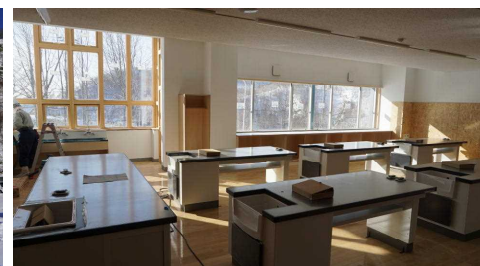
2月いっぱいの完成を目指して急ピッチで作業をしている様子うかがわれました。たくさんの工事関係者がおり、それぞれの部署を協力し合いながら進めていました。

特に印象的だったのは、広い廊下や多目的ホール(2階)。それに続く幅が広く大きな階段は、テレビに出てくる大臣の認証式後の写真を撮る時の階段のようでした。広く大きな体育館もすてきでした。床にはパイプ(暖房用)が張り巡らされており、暖かい校舎になるのではないかと思います。また、校舎内は大変明るく彩取りの加減が工夫されているようでした。校舎から望む周りの景色もすてきでした。

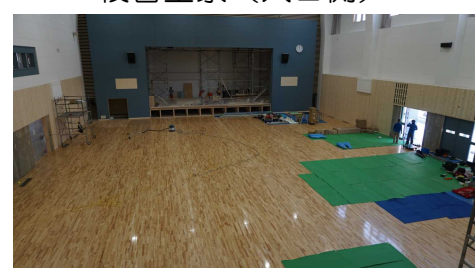
完成が大変楽しみです。



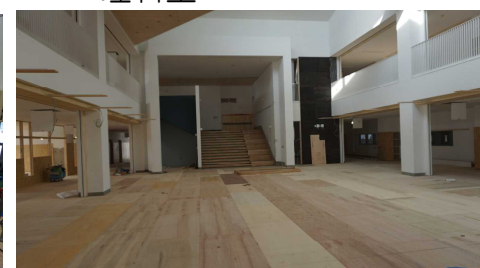
校舎全景(入口側)



理科室



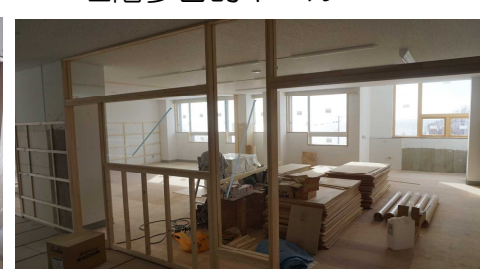
体育館



2階多目的ホール



家庭科室



普通教室

2月8日(木)現在

冬休み高校生ボランティア 小学校学習支援

羅臼小学校、春松小学校で冬休み学習会が、実施されました。学習会では、高校生の学習支援ボランティアが12月25日(月)・26日(火)予定されました。しかしながら荒天のため25日は中止になり、26日(火)のみの実施となりました。高校生ボランティア8名の内4名の方が両校の学習会で支援してくれました。

羅臼小学校に7名、春松小学校では5名の生徒が支援してくれました。

高校生は、各学年に別れて担任の先生の指示に従い丸付けなどを協力して行っていました。

この事業には毎年数名の高校生が参加してくれます。大変感謝しています。

今回参加してくれた高校生ボランティアは、1年生3名、2年生4名、3年生1名の合計8名です。



羅臼小学校の様子



春松小学校の様子

知床未来中学校説明会

2月8日(木)に羅臼中学校の先生方が、羅臼小学校の6年生を対象に出前授業と知床未来中学校の説明会を実施しました。

〈出前授業 数学〉
中学校数学授業の体験です。数学の先生2人がきて授業をしてくれました。

磁石を使ったグループ学習を行いました。
「なぜ?」「どうして?」「こうしてみよう」という声が飛び交う授業になりました。



校長先生のお話や教務と生徒指導の先生からも知床未来中学校での1日の過ごし方や、生活のきまりなどのお話がありました。春松小学校から入学してきた生徒と一緒にあります。自分から積極的に話しかけて早くたくさんの友達を作ってほしいです。

また、中学校生活では、新しいことに積極的にチャレンジしてほしいですね。

羅臼中学校ブログより

ビジターセンターに行ってきました。 羅臼幼稚園

2月9日金曜日に羅臼幼稚園の園児がビジターセンターを訪問しました。

①羅臼で生息している動物について知る。
②冬の屋外で元気に雪遊びをする。
この2つのねらいを持って、訪れました。
年長児は、展示室で羅臼に住む「シカ、トド、シャチ、クマ、シマフクロウ」などの動物の骨格標本を見ながら、金澤自然環境教育主幹の説明を聞きました。

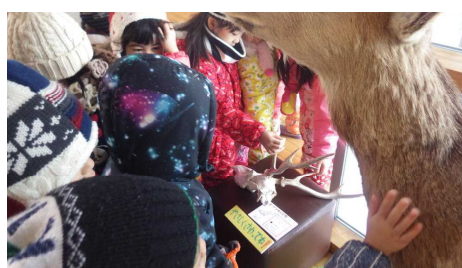
質問コーナーでは、金澤主幹も答えに困るような鋭い質問も出ていたようでした。

また、金澤主幹は、説明のお話をしっかり聞ける年長さんと感心していました。

年中・年少さんは、別室で羅臼についての映像スライドを見ていました。

このあと、風が吹いて多少寒かったのですが、ビジターセンターの外に出て除雪でできた雪山で楽しく元気よく遊びました。

尻滑りをしたり、雪の中に寝そべったりしていました。



インフルエンザに要注意

警報が出ています。手洗い、うがいをしっかりとインフルエンザにかからないよう気をつけましょう！

地域学の旗手「知床学」

自然環境教育主幹 金澤 裕司

◎「知床の日」に

「1月30日は知床の日」です。昨年、北海道が決めました。何故この日？と思ったら、世界遺産地域として登録されてから初めて流氷が接岸した日なのだそうです。

登録理由に「北半球において流氷が訪れるもっとも南である」という事があるので、これもまあ一つのもっともな理由かなと思います。

今年は第二回目を迎えました。

それを記念した行事が札幌で開催されました。道民カレッジ連携講座「しれとこ大百科」というものです。

講座は二部から構成されていて前半は知床世界遺産地域科学委員会委員長で北大名誉教授の桜井泰憲先生の講演です。テーマは「なぜ、知床は世界遺産なのか？」。知床の自然環境の特異性だけでなく、それを守るための世界遺産協議会や科学委員会などの仕組みも他の地域には見られない優れたものだとかわりやすく説明してくださいました。

後半は、知床学の内容とその目指すものについて僕から、町民向けの知床学講座「いころ」で行われたオホーツク文化やトビニタイ文化など知床の先史時代の遺物と特徴について天方学芸員が講義しました。

本講座には、111名の一般参加があり会場の座席が足りないほどで、知床への関心の高さがうかがい知れました。

◎「知床学」の日々

「道民カレッジ」の直後、2月3日～4日、東京大学海洋アライアンス海洋教育サミットが東大の安田講堂で開かれました。この会場でも「知床学」についてポスター発表によって多くの人々に伝えました。

昨年11月には早稲田大学で行われた「場の教育シンポジウム」においてポスターによる発表を行っています。12月には「北海道地方E S D活動支援センター発足記念フォーラム」があって、パネリストの一人として出席して「知床学」についてお話する機会を得ました。

さらに、「日本科学者会議北海道支部」の支部報を始めいくつかの雑誌に「知床学」について寄稿する機会がありました。

このように昨年から今年にかけて「知床学」について説明したり書いたりする機会が急増しましたが、この経験を通じて僕自身が「知床学」についてじっくり考えることができました。

◎この10年間・・・出会いと成長

知床学は初のうちは「知床半島や羅臼町について学ぶ」という学びでした。「〇〇学」という地域学が各地で展開されていますが「知床学」もそれらのうちの一つでした。これら地域学の中では「知床学」のスタートは比較的早い方で、今年度で10年が経過しています。10年の時間は「知床学」を大きく発展させたと思います。

その背景には羅臼町が直面する様々な課題や地球規模の気候変動などがあります。しかし、それ以上に様々な人々との出会いがあったことが最大の要因ではないかと考えます。

立教大学との連携協定によって、地域の抱える課題に教育に関わることの重要性がわかってきました。この協定を通して長崎県

対馬市や静岡県西伊豆町の取り組みを学ぶことができました。また、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進推進センターとの協定によって、海についての学びに重点が置かれるようになってきました。

知床という土地に惹かれる人々は、国内外を問わず実に多く、それらの人々のほとんどは地球環境や地域の衰退に対して深刻な課題意識を持っています。

そして、その解決のカギは教育にあると考えている人々ばかりです。E S D（持続可能な開発のための教育）は人と人をつなぐツールだとよく言われますから、出会いによって思考が深まるのは当然なのかも知れません。羅臼町の知床学も様々な人々との出会いを通して発展してきたという事実は間違いのないことでしょう。

◎知床から地球の未来を見通す

私たちは知床についての学びを深めてきました。クマやワシ、クジラなどの海獣類、野鳥や各種小動物から昆虫、バクテリアなどの生き物、さらに知床半島や根室海峡の成り立ちに至るまで「知床において」「知床について」学んできました。また、そんな知床半島で人々は先史時代からどのような暮らしを営み、どんな出来事があったかも知りました。その上で、羅臼町で人々が幸福に暮らすためにはどのような町づくりをするのが良いか、そして現在の羅臼町が直面する社会的課題と向き合っています。

このように知床学は、空間的にも時間的にもこの10年間で次第に裾野を広げ視点を高めてきました。

今、その視点から知床や羅臼の将来像を見据え、「知床のために何ができるか」を考え行動することが求められています。そしてそれはつまりところ地球の未来のために何ができるかを考える「知床学」へと視野を広げることになるのです。

「知床学」の精神的基盤を書いた「知床学綱要」の結論には「知床は地球規模で見れば小さな半島にすぎない。しかし、知床からの発信は、すぐれて鮮やかに人類の業（ごう）への倫理的挑戦の一つである。知床をはじめ『僻地』と呼ばれる諸地域において、続々と誕生する地域学は、持続的な未来に向けて従来の教育を乗り越え、新しい大きな力を生み出すだろう。」と記されています。

「知床学」は地域学の旗手となるであります。



道民カレッジで羅臼の先史時代を語る天方学芸員



道民カレッジ 桜井先生の講演



E S D支援センター発足記念シンポジウム